

背景・課題

- 対面型の医療通訳が広がりがつつあるが、訪日・在留外国人の増加に伴い、特に観光地での外国人患者の受診が増加していること、少数言語の通訳のニーズが増加していることにより、対面通訳のみでの対応が困難な状況となりつつある。
- 電話による医療通訳は、対面通訳と比べて、①即時性がある、②対応可能な地域が限定されない、③対応可能な言語の幅が広い等の特徴があり、利便性が高いものの、医療機関における認知度はまだ十分でない。

本資料は、各都道府県の皆様に積極的な活用を検討いただくため、平成30年度予算成立前に配布しています。採択、執行に当たっては、国会での平成30年度の予算成立が前提となりますので、今後、事業内容や実施時期等に変更が有り得ることをご承知置き下さい。

目的

電話医療通訳の利用を通じ、その利便性に対する医療機関の認識を広めることで、外国人患者の受入れ環境の更なる充実を目指す。

事業内容

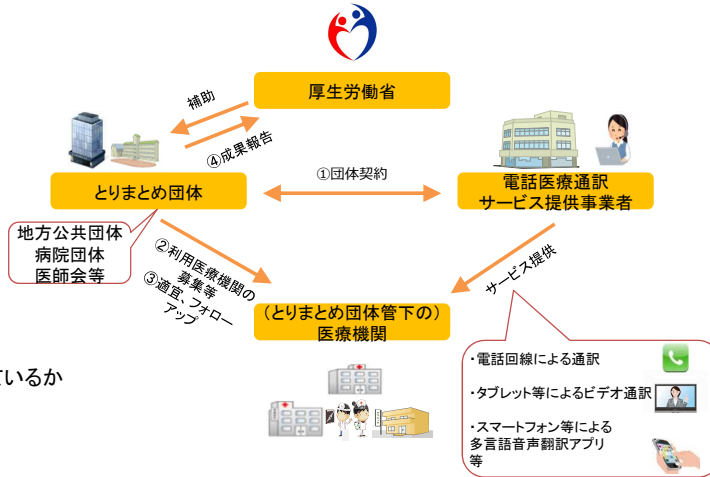
とりまとめ団体¹⁾は以下を実施。

①電話医療通訳サービス提供事業者との間で、一括して電話医療通訳の利用に係る契約を行う(団体契約)。

②管下の医療機関に対して電話医療通訳に関する周知を行い、サービスを利用したい参画医療機関の募集等を行う。

③適宜、医療機関がトラブルなく電話医療通訳を利用・運用できているかフォローアップを行う。

④厚生労働省へ成果報告する。



電話医療通訳サービスの周知・浸透を図り、外国人患者の医療機関へのアクセス向上を実現。

1) 複数の医療機関から構成される法人(病院団体・グループ、医師会等)、地方公共団体等

③外国人患者受入れ環境整備推進事業（医療通訳者・コーディネーターの配備による拠点病院構築）

医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業136百万円の内数

背景・課題

- 医療機関が外国人患者を受け入れるに当たって、言語が通じないことが不安要素となっている。
 - 在留・訪日外国人が増加する中、地域における外国人患者受入れの拠点となる医療機関(拠点病院)を整備する必要がある。
- ※拠点病院：周辺医療機関から外国人患者受入に関する問合せがあった際には、回答・助言を行う事等、地域の拠点として機能する事が期待される

本資料は、各団体・医療機関の皆様に積極的な活用を検討いただくため、平成30年度予算成立前に配布しています。採択、執行に当たっては、国会での平成30年度の予算成立が前提となりますので、今後、事業内容や実施時期等に変更が有り得ることをご承知置き下さい。

目的

- 地域における外国人患者受入れの拠点となる医療機関(拠点病院)に、医療通訳及び外国人向け医療コーディネーターの配置を行う。
- 拠点病院が拠点病院機能(外国人患者受入れに関して、周辺医療機関等をサポートする機能)を強化する支援を行う。

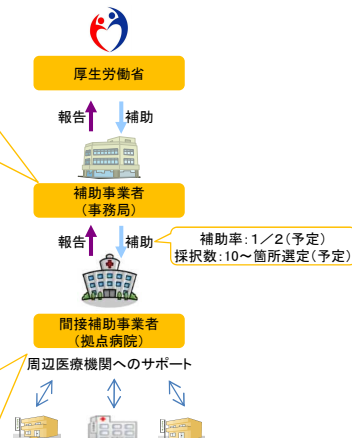
事業内容

補助事業者(事務局)の役割

- 拠点病院に医療通訳及び外国人向け医療コーディネーター¹⁾を配置
- 拠点病院機能の強化支援
 - 医療機関のヒアリング・他院の取組み(ベストプラクティス)の紹介等
- 拠点病院の選定に関する検討委員会の実施
- 拠点病院で得られた好事例や効果測定データ等の収集・分析及び活用
- 拠点病院に対する患者向け説明資料や同意書等に関する情報提供や使用に関する助言等

拠点病院の取組

- 医療通訳の配置
 - 病院の従事者と患者及びその家族の間のコミュニケーションを行う
- 外国人向け医療コーディネーターの配置
 - 外国人患者が円滑に医療を受けられるよう、医療機関の内部・外部(自治体・保健所・保険者等)との調整を行う
- 拠点病院機能の強化(例)
 - 自治体や周辺医療機関に対して、拠点病院であることを周知
 - 周辺医療機関等から、医療通訳が必要な患者の紹介受入
 - 周辺医療機関向けに、院内見学会・セミナー・勉強会等を開催
 - 周辺医療機関に対して、連携・助言



これまでの実績

H26年度：10医療機関
H27年度：19医療機関（継続10+新規9）
H28年度：27医療機関（継続18+新規9）
H29年度：35医療機関（継続26+新規9）